

瀬戸市観光推進指針 2026-2030【パブリックコメント概要版】

■策定の背景と目的

瀬戸市は「せと・まるっとミュージアム観光推進アクションプラン2021-2025」（以下、「アクションプラン」）を策定し、観光振興に取り組んできました。コロナ禍で観光需要が落ち込んだものの、現在は回復傾向にあります。しかし、インバウンド受入や飲食サービスの充実など、新たな観光ニーズに対応する必要があります。

このため、本指針を「次のステップに進むための5年」と位置づけ、「アクションプラン」を踏襲しつつ、これまでの成果を振り返り、官民が協力して持続的かつ戦略的に観光を推進するための羅針盤とするものです。

■基本理念

『もっと知りたい、また行きたい』誰もが心地よいまち 瀬戸 ―まるっとミュージアムから次のステージへ―

「せと・まるっとミュージアム」の強固な土台の上に新たな理念を掲げ、観光客が瀬戸のもつ歴史・文化の真の価値を深く理解し、より深い交流につながることを目指します。これにより、**観光客、地域住民、事業者、観光協会、行政など、誰もが心地よいまち**を実現し、瀬戸の観光を次のステージへと進化させていきます。

コンセプト

『まちを知りたい・語りたい』 「物語」に触れる旅へ

市内の地域資源をより一層磨き上げ、歴史・文化・産業などを組み合わせた「物語」として国内外に発信し、観光客の知的好奇心と探求心に応える。

『こだわりを知りたい・伝えたい』 「本物」を体感する旅へ

1,000年以上の歴史をもつ「ものづくりのまち」で、伝統と文化が息づく「本物」を提供し、文化資源の魅力を伝える。

『人に会いたい・交流したい』 「交流」し共感する旅へ

ツクリテや商店街の「人」を積極的に発信し、「この人に会うために瀬戸を訪れたい」と思ってもらえるような、人との出会いを重視した観光を強化する。

『その日、その時のまちの顔に出会いたい』 思いがけない「発見」に出会う旅へ

訪れるたびに異なる「顔」に出会えるまちとして、来訪者が思いがけない発見やホスピタリティを感じる旅を提供する。

■エリア戦略

- 「誘客エリア」
中心市街地（尾張瀬戸駅周辺）
- 「交流・体感エリア」
洞、赤津、品野、水野など
- 「自然堪能エリア」
定光寺公園、岩屋堂公園
東海自然歩道、海上の森など

各エリアの特性を活かして、地域全体の持続的な発展を目指します。



■計画期間

令和8（2026）年度から令和12（2030）年度までの5年間

■指針の位置づけと期間



■取組課題

地域資源の観光への活用

豊富で価値の高い資源の活用と情報発信の強化

多様化・深化する観光ニーズへの対応

観光ニーズに対する現状の観光施策のズレやギャップの見直し

官民連携の推進及び取組の継続

瀬戸市全体が一丸となって観光振興に取り組む相互連携の確立

持続可能な観光への取組

安定的かつ継続的な事業推進のための財源及び人材の戦略的活用

基本方針

1 瀬戸の魅力・価値を“観光につなげる” （瀬戸らしさの追求）

瀬戸の魅力である地域資源に光を当て、歴史や文化とつなげて語ることで、来訪者が体験や商品に付加価値を感じられるよう努める。

▶取組の考え方・方向性

- ①「本物」を体感する「物語」づくり
- ②多様な市内滞在（体験）プログラムの造成
- ③アートとものづくり文化を活かした観光推進
- ④テーマ性をもった様々な観光資源の結びつけ

2 瀬戸の魅力・価値を“観光客につなげる” （きめ細かな情報発信）

瀬戸の魅力や価値について、情報をきめ細かく発信し、観光誘客の強化、満足度向上を目指す。市民も自ら発信したくなるまちを目指す。

▶取組の考え方・方向性

- ①観光関連情報の一元化
- ②地域の特性に合わせた受入体制の構築と連携の推進
- ③データを活用したマーケティング環境の整備
- ④商品・ターゲットに合わせたプロモーション戦略

3 瀬戸の魅力・価値が“人と人をつなげる” （つながりを深め、出会いが重なるまちへ）

瀬戸の魅力や情報を観光関係者をはじめ地域で共有し、多くの魅力や有益な情報の発信により、市内の回遊や再訪の更なる促進を図る。

▶取組の考え方・方向性

- ①観光に携わる関係者間の情報共有と地域連携の推進
- ②再訪につながる環境づくり
- ③宿泊施設や飲食店と連携した回遊促進
- ④広域連携を軸としたインバウンド向け商品造成

4 瀬戸の魅力・価値を“未来につなげる” （価値を共有し次の100年へ）

持続可能な観光の仕組みを構築し、瀬戸の魅力と価値を未来へと受け継ぐ。

▶取組の考え方・方向性

- ①価値やサービスに見合った価格設定への見直し
- ②市制施行100周年に向け国際芸術祭のレガシーを活かした価値創造
- ③ニーズ変化に対応するための人材育成と外部知見の活用
- ④イベント企画運営に係る民間・地域の参画促進
- ⑤観光協会組織体制の検討

■推進体制

推進体制 「オール瀬戸」



■数値目標（KGI）

※指標1・2は指針初年度に基準値と目標値を設定

指標		基準値		目標値（2030年度）
1	観光客の満足度	※	→	※
2	観光関係者の満足度	※	→	※
3	年間観光来訪者数	174万人(2024年度)	→	191万人
4	観光消費額	104億5,000万円(2024年度)	→	114億4,000万円